

1991年3月16日(土)～4月28日(日)

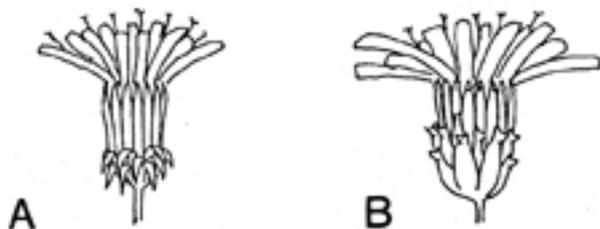
春期特別展「タンポポと春の花」3月16日(土)～4月28日(日)

うきうきするような春、野にも山にも色とりどりの花が咲き出します。中でもひととき鮮やかな黄色い花をつけたタンポポは、太陽の化身のように私たちの心を暖かくしてくれます。

この特別展ではそんなタンポポや野の花たちの見どころを紹介し、春の自然観察がもっともっと楽しくなるお手伝いをします。野山に出かける、その前に博物館をのぞいて見て下さい。

さて、ここでみなさんにタンポポについてのクイズを3つ出します。答えに自身のない人は、展示を見て確かめて下さいね。

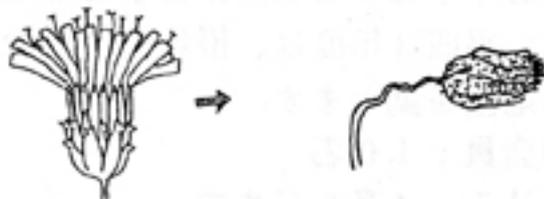
クイズ1. タンポポを見ていたら、花を包む部分がAのようになっているものとBのようなものがありました。さて日本に昔からあったカントウタンポポはどちらでしょう？



クイズ2. 田んぼでコオニタビラコの花を見つけました。タンポポと比べてみましょう。共通点と違う点が、それぞれ二つづつありますのであげてみて下さい。絵からも分かることがありますよ。



クイズ3. 公園のすみに一株だけカントウタンポポを見つけました。ところが、花が終るとみんなしおれてしまい、綿毛をつけた実になるものがありません。どうしてこんなことになっているのでしょうか。



記念講演会 「植物画の楽しみ」

日時：4月14日(日)午後1時半～4時

講師：石戸忠氏(植物研究家)

会場：平塚市博物館講堂(入場自由)

自然観察会 「春の花を訪ねて」

日：4月7日(日) 秦野市養毛～浅間山

内容：スマレやキブシなど草木の花を観察します。

申し込み：3月25日までに往復葉書で



▲ハナバチが訪れたカントウタンポポ
撮影(5月, 大山)

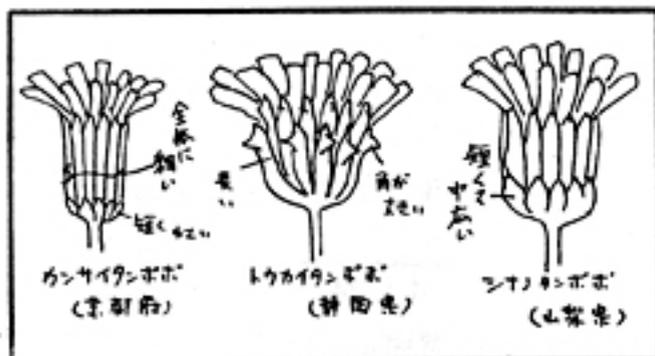


▲多くの花と実をつけているセイヨウタンポポ
撮影(4月, 相模川土手)

春の特別展はもうご覧になりましたか。今回は、特別展がいろいろな方々の協力でできたことを紹介してみましょう。こんなことを頭において見ると、また違った見方ができると思います。

◎宅急便で届いたタンポポ

会場には、タンポポの花の形が地方によって変化する例として、京都府、静岡県、山梨県のタンポポが鉢に植えて展示してあります。このうち、京都のものは大阪市立自然史博物館の布谷知夫さん、山梨県のは山梨県自然観察指導員連絡会の植原彰さんが送って下さったものです。宅急便で届いたものを植えたら、無事に根づき、展示することができました。



◎ヨーロッパの写真は？

雪のある高山を背景に一面に咲いたタンポポの写真はドイツで撮影されたものです。セイヨウタンポポのふるさとでの姿を紹介しようと展示しました。これは、新潟大学の森田竜義さんの撮影です。森田さんは、日本一のタンポポの専門家で、今回の展示でも、タンポポの分類などについて御指導を頂いています。タンポポの研究のためにオランダに2年間留学されたことがあり、ヨーロッパの写真はその時のものです。花がオレンジ色のかわった種類のタンポポの写真もお借りして並べました。



◎高山のミヤマタンポポの写真は？

ハイマツの海の広がる夏山をバックにしたミヤマタンポポの写真は、東京学芸大学の小川潔さんからお借りしました。小川さんもタンポポの専門家で、東京のタンポポ調査のコーディネーターであり、タンポポの発芽や成長についていろいろな実験もされています。山登りも大好きな方で、ミヤマタンポポの写真は、その意味でも小川さんらしいものです。



◎植物標本はだれが集めた？

会場には約70点の春の花の標本も展示されています。これらの標本にはラベルがついていますが、採集者にはどんな名前があるか注意されましたか？のべ10人くらいの名前が出てきますが、これらは「神奈川県植物誌調査会」という団体の方々が、湘南地域から採集され、博物館に保存してあるものです。分布調査の結果は、「湘南植物誌1～4」「神奈川県植物誌1988」などの本にまとめられています。標本は展示に使われるだけでなく今後の研究の基礎資料としても役立ちます。

◎スマレは本物？

会場には16種類のスマレが展示されていますが、まさか生きている本物ではありませんね。これは精巧に作られた模型で、神奈川県立博物館からお借りしたものです。実物から型をとって樹脂で作るので本物そっくりにできるのです。